

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
<b>治燥剂 滋陰潤燥剂 5</b>		
<p>ぞうえきとう 増液湯</p>	<p>増液潤燥 (増水行舟)</p>	<p>玄参 30g・麦門冬 24g・生地黄 24g 水煎し服用する。</p>
<p>温病条弁</p>	<p>&lt;主治&gt; 陽明温病、津液水足 (無水行舟) 便秘、発熱、口渴、腹滿、舌質が紅で乾燥、舌苔が黄燥、脈が細あるいは無力などを呈す。</p> <p>&lt;病機&gt; 熱邪傷津による、無水行舟の便秘である。 腸胃熱盛 (陽明病) で熱邪が津液を耗損するが、陰虚の体質であったり傷津が高度であると、腸燥のために糞便が硬化して推動されず (これを無水舟停と例える)、便秘を呈する。便秘で腑気不通になって腹滿がみられ、熱盛のために発熱、舌質が紅、舌苔が黄を伴い、傷津のために口渴、舌の乾燥、脈が細あるいは無力を呈している。</p> <p>&lt;方意&gt; 陽明熱結の便秘には承気湯で攻下するが、傷津が甚だしく脈が細あるいは無力を呈するときには、瀉下によって傷津が増悪するので、津液を滋潤することにより通便する「増水行舟」の方法を用いる必要がある。 鹹寒で滋陰清熱、潤下に働く玄参が主薬で、甘寒滋潤の麦門冬と甘寒、清熱滋陰の生地黄が補佐し、滋陰清熱、潤腸通便の効能を現わす。</p> <p>&lt;参考&gt; 温病の傷津には攻下をごく慎重にすべきであり、必ず本方 (増液湯) を用いて排便の有無を確かめ、排便がなければ、滋陰増液の基礎のもとに、調胃承気湯か増液承気湯を用いるべきであるとしている。 増液承気湯は、増液湯に大黄・芒硝を加えたものである。</p>	